FIP Comission 2に出席して

三上　泰治*

1. まえがき

FIP（国際プレストレストコンクリート連合）には，PCの技術向上を図るために各専門分野に分かれて10のComission（委員会）が設けられ活動が行われているが，そのなかの1つにComission 2のPrestressing Materials and Systemsがある。この委員会は，PCの緊張材とシステムに関する技術を取り扱っており，昨年はパリ，本年はハンガリーのブタペスト(4/10～4/11の2日間)と大体毎年1回開催されている。

この委員会のメンバーは，委員長であるスイスBBRのMr. Müllerをはじめ24か国34人で構成され，日本からは神鋼鋼線工業（株）と住友電気工業（株）の2社が日本の代表として加わっている。

また，この委員会には各テーマごとにad-hoc Commitees（分科会）が設けられ，3～6人程度のメンバーで討論を何回か行い，その内容を委員会で報告するとともに，成果が出ればこれをState of the Art Report, Technical ReportあるいはRecommendationのような形で報告することになっている。もっとも最近のFIPは，レポートの発行にスポンサーをつけることを検討するぐらいに経済状態は思わしくないようである。

2. 委員会の概要

委員長のMr. Müllerの挨拶の後，出席者の確認と前回議事録の確認が行われたが，出席者は毎年大体同じ顔ぶれで，12か国20人であった。日本からは筆者ら2人が出席した。

各テーマの報告がなされたが，それらのテーマと報告者は，

（1） 耐久性について……Mr. Creton (フランス)
（2） 複合応力下での挙動…Mr. Creton (フランス)
（3） 高強度PC鋼棒……Mr. Madatjan (ソ連)
（4） 外ケーブル……Mr. Mort (スイス)
（5） 高強度繊維の構造物への適用
……Mr. Rostasy (ドイツ)
（6） 斜材用材料とそのシステム
……Mr. Mort (スイス)
（7） テンドン……Mr. Kocter (オランダ)
（8） 品質管理……Mr. De. Waal (オランダ)

これらのテーマの活動状況と，その時に出た意見の中で主なものについて述べる。

（1） 耐久性……昨年の委員会で，アメリカのFHAで亜鉛メッキ鋼材の使用が禁止されたという雑誌の記事が紹介され話題になり，種々の意見が出されたが，レポートの中の亜鉛メッキの内容について，亜鉛メッキの問題と水素脆性の問題を混合しているとの指摘があり，さらに検討を加えようとしている。
（3） 高強度PC鋼棒……昨年の委員会で報告された内容とほとんど変わっておらず，また報告者の個人的な意見ばかりで定量的な意見もなく，進展していない状態である。
（4） 外ケーブル……最近，ヨーロッパ（特にフランス）で盛んに適用されている外ケーブルを中心にまとめが行われている。
（5） 高強度繊維の構造物への適用……4年前からState of the Art Reportを出す予定で活動してきており，80％近くまでまとまっている。新素材に関連した最近の技術を中心にまとめられている。
（6） 斜材用材料とそのシステム……アメリカのPTIのRecommendations of stay-cable design, testing and installationのFIP版となるものであるが，PTIに比べ鋼材関係の仕様が非常に厳しくなっている。日本での現状を考慮し，具体的な数字を上げて反論したが，価格が高くなっても高品質のものを提供すべきというのが分科会委員の意見であった。今後さらに継続討議が必要であろう。

この委員会の翌日(4月12日)ブタペストから180 km離れたMiskolc（北ハンガリー）にある“D 4 D”という鋼線メーカーを見学する機会に恵まれたが，工場の作業環境の悪さには驚かされた。

* Yasuharu MIKAMI：住友電気工業（株），PC鋼材委員会委員

3. あとがき

今回，委員会がスムーズに行えたのもホスト役のブタペスト工科大の Erdelyi 教授の世話に負うところが大きい。もっとも会議室のまん中に，向かいに座っている委員の顔が見えなくなるほどの大きな柱があり，PCの技術の会議にしてはお粗末であった。また，通常は要求されない委員会会議費用を支払う必要があったうえに，ドルかマルクの現金しか受け取れないと言われ，あらかじめ交換しておいた現地通貨（フオリント）もトラベラーズチェックも役に立たずあわてたことである。ホテルはもちろん，銀行でさえもなかなかドルやマルクの現金に換えてはくれないので，ハンガリーを訪れる方々は注意が必要である。ハンガリーの現在のインフレーションに悩む国情をよくあらわしている。

東欧の多くの国がそうであったように，インフラの整備の遅れが目立ち，自動車も日本の 30 年前を思わせるものが多く走っているものの，会議後のディナーパーティーに出席した政府関係者からも，タクシーの運転手からも市場経済への移行によって国全体に活気がでてきたこと，日本からの投資を期待し歓迎することを聞かされ，ハンガリーが戦前のように工業国の仲間入りを果たす日も遠くないのではないかと思いつつブタペスト空港をあとにした。

◀刊行物案内▶

プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集

（第 30 回記念研究発表会——1990 年）

本書は，本協会で毎年開催している研究発表会が 30 回目にあたるのを記念して，金沢にて行われた表記シンポジウムの講演論文集である。最新の研究，工事報告が数多く盛り込まれ，充実した内容となっており，プレストレストコンクリートの動向を知るうえで貴重な図書であると確信する。

頒布価格：6 000 円（送料 450 円）
体　　裁：B 5 判，箱入り
内　　容：特別講演 4 編（26 頁），講演論文集 87 編（422 頁）